

419
1

算法少女 わ419-1 00-001

国立国会図書館





題算法少女

夫數之於六藝也猶橘之於六君
與何則禮樂射御書由是而達
菴朮甘夏匪彼不行故小技而列
于藝林賤者而廁乎君子嗟術之
妙貴老之名不亦宜乎余家本攝



州世隱乎藪澤刀圭之暇旁及斯
技釣玄探幽忘食忘憂假以歲月
頗臻其妙嘗有故而東又有故而
西鱸蓴之思雞黍之期不遠千里
而來而往不遑寧處栖栖遲遲蓋
有年矣近卜居于東都城東自號

壺中隱者蓋世人擇醫貴老為常
恐於余與改焉斯書也嘗口授少
女彼輯而為卷且請為之名余閱
之曰斯嘗口授者也乎曰然然則
其功在余名以貴老與雖賤女集
而為卷其勒在女當以少女少女



為妙後人或讀斯編則益信術之
妙乎有智無智違以三十里余於
斯序亦云

安永乙未之冬

壺中隱者



此は壺中隱者之語也。物語一語ひりゝ。活連の
 こ十何らりつらりみのはかま。彼邦の人ひ
 とく竹重女のおぼたねい。中少事好めるおも
 ひつゝの向と設けく。屋へこゝるゝ顔もあは
 ぶら梅の香のて満津原よ。或は折ふとも花は
 法の小み。雨をくぬきをさへ。ま答とちりるると南
 志合わたり。根かゝる事の岸とふふれかひかゝる

算法少女 わ419-1 00-004

国立国会図書館





文如... 及... 水の...
 後... 池... 公...
 ... 山... 流...
 ... 又...

日の... 算...
 ... 演...

... 文...
 ... 德...
 ... 中...
 ... 探...
 ... 其...
 ... 又...
 ... 自...
 ... 二...

卷之上





一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

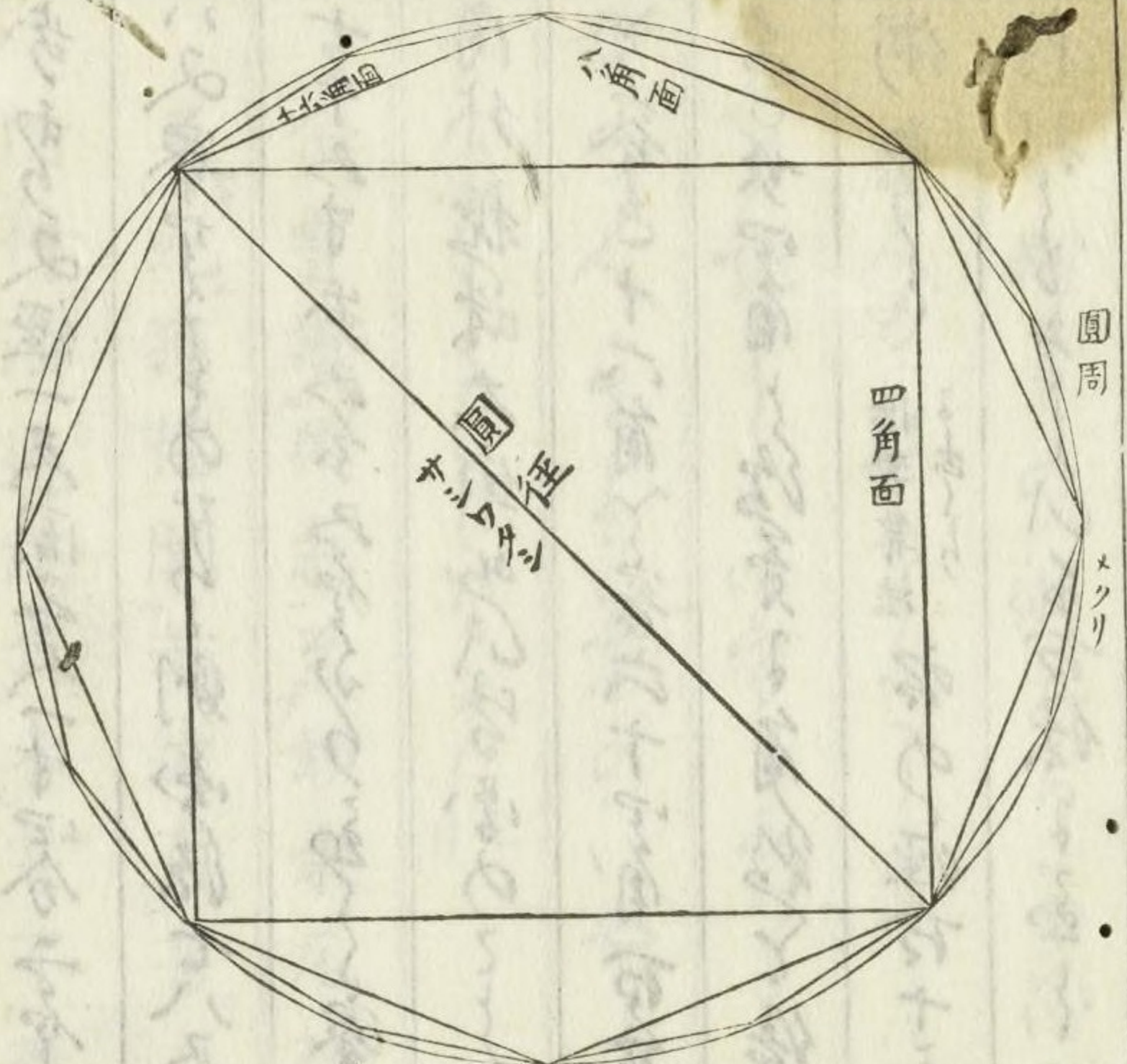
多水うのり

嘉月十日

その氏序



求^ニ圓^ノ周^ヲ正^ラ數^ラ古^ク今^ノ未^ダ發^シ秘^ス術^ヲ秘^ス術



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

徑一尺周三尺一寸六分と云わらば法は此と其の稍密なるもの





少、其圓法七九と云、是なり、徑一尺の年、其積七十九寸
 歩あり、又徑一尺圓之、定一寸二分、之、年と云、其積の二尺一寸二分あり
 父、密なるものなり、則、密法七八と云、是なり、徑一尺の、面積
 七十九寸、歩あり、分あり、密なる、ハ、徑百十三周三百六十六也
 内外、秘法、大率、ハ、皆、密の、こと、ハ、密の、内、ハ、初、四角と入、八角
 と容、と十六角と容、六十、四角、百、八角、二百、十六角、四百、十二角
 也。女、四角と、容、角、と倍、く、十、余、方、角、と、密、く
 密、あり、括要算法 密の、徑、百、十三、周、三百、六十六、と、得、たり
子、歩、り 密、は、も、き、ひ、十、百、倍、と、云、い、て、も、角、の、名、を、消、入、と
 密、周、の、密、は、も、わ、り、に、ま、さ、に、教、を、初、漢、右、今、も、い、ふ、人
 至、り、稀、なり、予、角、の、密、と、不、用、也、心、密、と
 密、の、密、の、密、あり、至、極、の、秘、密、なり、とい、へ、と、も
 今、或、人の、密、ら、ふ、と、云、い、書、の、密、を、求、む、妻、一、く
 是、と、記、し、字、の、密、と、大、極、玄、妙、の、秘、密、あり
 世、の、人、も、も、素、の、い、や、、と、も、み、たり、
そ、の、密、と、い、ふ、なり

余嘗讀_テ吳志。至_下頭乘尾除一算之法。父母不相語。
 及_レ死。孫權聞_二趙達有書。求_レ之不得。乃發_二其棺。一_モ無
 所得。法遂絕焉。未嘗不廢書。而歎也。夫人死技絶。
 古今甚多。叔夜死。大平引絶。可_ニ類推己。孰_下與示諸_下





卷之五

四方。以垂于不朽。與天下後世共之也。

安永乙未之冬 壺中隱者誌



算法少女卷之上

攝州 壺中隱者撰術 季女平氏輯

○自問自答十條

第一

今を心し。わが長者の。秘の習小なり。その分との多ふ。不
 り。甲小にき。事。米一粒と。銅日。海日。一
 日一倍。少。終り。大。亦。新。事。何。時。も
 中。長。老。多。い。と。公。易。事。な。り。何。時。も
 あ。つ。え。得。ま。ん。と。し。や。と。い。は。彼。の。心。新。く。ハ。一。月。の
 熟。高。と。倍。少。く。只。今。を。い。と。人。と。し。や。と。い。は。長。老。も。何。と



いふ事終一頃の終つぬら。高と下と一それは。賤の言や〜〜。倍の終つまら〜。即坐湯とゆ〜。今温故而知新の意とて。一美〜知術と同事

第二

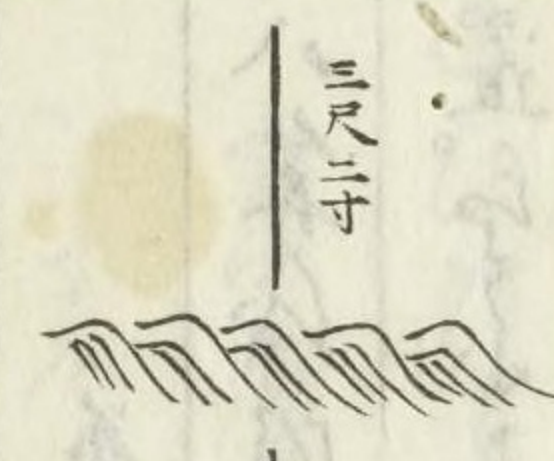
今ハ〜。高人〜有り。一人と奥弱〜。十六日月小ゆ。又一人と小〜。廿日〜。法一人ハ。手〜。又日〜。今年〜。再令せんと。同人あり。主術の度

第三

信花〜。一石〜。江戸〜。百倍〜。今又〜。一石〜。又信花の小判の。一石〜。江戸〜。江戸〜。今を〜。何程〜

第四

水の中〜。水中〜。水〜。西〜。水〜。知〜

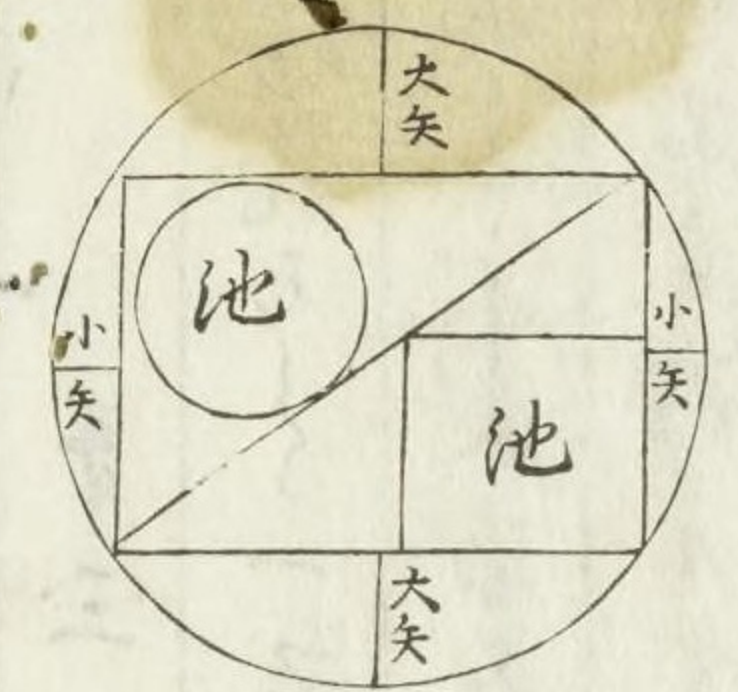




第八

八算成以日算するべきの。十計百三十五百又十六百七斗算九合を
置。ゆふよう坊のこくや一二三又八と。各算めくせらるる。
半とよのちりとも。人々希ましく思ひとありき。
こゝの事

第六



家のこくく。大矢池の内小直田を。又内は
方角の池あり。大矢亦す。小矢一寸。内の各徑
方角と知る。妻しく初心の思ひ知る
池の事

第七

今何れこの小石あり。是と一とく。かきく。二六七九と。奇
数少く取らねと。余り八十。又二四六八十と。偶数少く取
らねと。余り四十。惣取ると知る。池の事

其八

今二三人もく又七人。お美しく。何百何十何と何と何と
と。ある。側めく十露盤い。と。指めく。かきく。置。誰く。ハ
遠い。誰く。と。合。と。知る。池の事
臺中湯若田。何の比か。と。河船の人。活花。と。あり。と。ハ。池
と。今。と。ひ。と。好。事。の。事。の。争。ひ。求。む。と。不。能。の。





類の今に術と下を小妻に記す

其九

小石坂三十ちうく並へ。かきえ初の石と定め。あつ月よ
あつらうら石とさる。又そ次うらあつめよあつら
何番目の石をいひゆへらうらうらと。十番無うらうら
初ら初術の事

第十

孕婦の卒の教と。あつ月とさる。生うら子の男女
と初ら妙術の事

し術古今類多し。下を記とさる。其の初術から

○右十問う初術の法とさる。さる術と。ひさの術と
かゝ何の者。流石の友。初心の事。行年とあつら
い流しと。志あつらうら。能くさまうら。そのら
下のさと見る事とさる。心やと初らうら
教の事。記し垂そのうら

○愚問十條

第一

小術の鑑よ。一夜二よ。おはよ。七お八夜九よ。この
いねふうらうら。九十九夜よ。成程いわり。かうらあつら
中。也。と。術と問





第三

いろはにちりぬるそつねなゆめみー
者十六のかわと入替く又文字の句はむとふその敷
何程おもしろくまこと知る御の事

第三

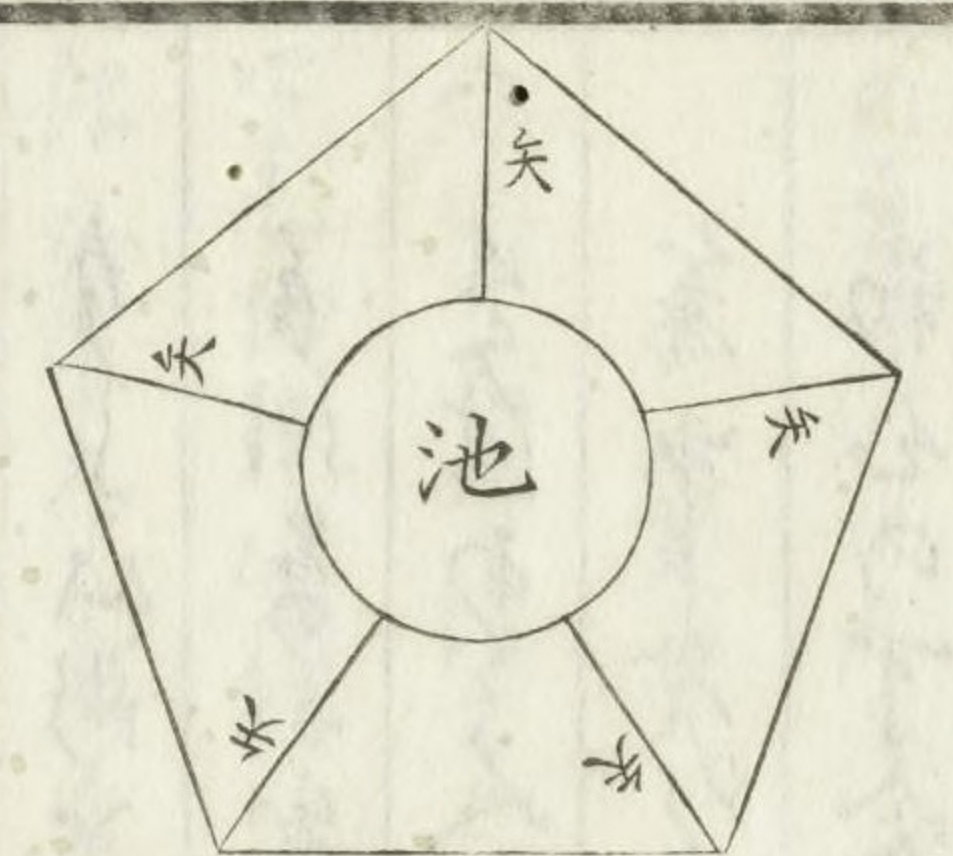
今実九柄。法七柄の敷あり。除之一箇○○○○○七弱
と得。実法ともあく少敷くもひくくその敷と知
御の事

第四

今事あつたりと桃とさく人敷とまは只云初の

取不と。心中の取あり。未の取取。候とま言。○計百八
又ら初よりと第二第三と。未の取かふ。○計百八
人敷と奇と。桃の敷敷と知る御の事

第五



右の同みり。さうとひつ。さうとひつ。初学

圖のこく。五角半田の内は池あり。
矢者若干。外餘積若干。矢元と不用。
解解と。初心の見やと。又身取と
角面並化証と知る御の事





初の内問の御意と能く思ひし。後考へてみると、
 自らの御と得給ふ。あつた然の故。初の内
 自問小出の御。自問以下の又問。それらに推
 してわづらの人へあつたつらさ。その御と
 幕中へあつた。いさの御り。あつた。あつた。あつた。
 初の内問の御。あつた。あつた。あつた。あつた。
 それらに考給ふ。日月の力。師友の助あり。自然
 とて。境へあつた。あつた。あつた。あつた。
 あつた。あつた。あつた。あつた。

第六

今ある銀百片。沙来銀八十片と借。そのある銀の之利合。
 金指を二銀五分。沙来銀元利合。今指を二銀五分。そのある
 二毛八條。又二毛五條の利息。今指を二銀五分。そのある
 二毛八條。又二毛五條の利息。今指を二銀五分。そのある
 二毛八條。又二毛五條の利息。今指を二銀五分。そのある
 二毛八條。又二毛五條の利息。今指を二銀五分。そのある

第七

今下品の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。
 一毛の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。
 一毛の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。
 一毛の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。
 一毛の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。
 一毛の御。その御と。一毛の御。その御と。その御と。





卷之五

第八

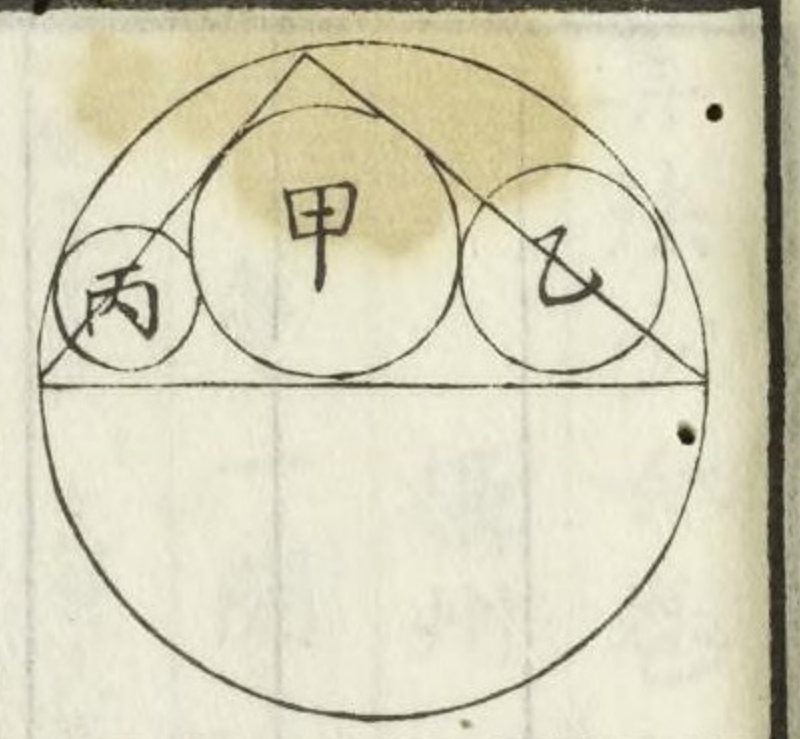
今物あり。其おれと不知。只と遊く。三言二言と添。
遊く。其言の事。一の教。遊る。其言又十と家。
又遊る。其言。一。遊る。其言。一。遊る。其言。一。

第九

今物あり。其おれと不知。只と遊く。三言二言と添。
遊く。其言の事。一の教。遊る。其言又十と家。
又遊る。其言。一。遊る。其言。一。遊る。其言。一。

第十

今物あり。其おれと不知。只と遊く。三言二言と添。
遊く。其言の事。一の教。遊る。其言又十と家。
又遊る。其言。一。遊る。其言。一。遊る。其言。一。



今物あり。其おれと不知。只と遊く。三言二言と添。
遊く。其言の事。一の教。遊る。其言又十と家。
又遊る。其言。一。遊る。其言。一。遊る。其言。一。

算法少女上之巻畢





算法少女上三卷畢

算法少女卷之中

攝州 壺中隱者撰術 季女平氏輯

第一問

四十億。二千百六	十九億。八百十萬	三億。六千百十	三十四百。七萬	百六十萬。千	三萬
十萬。八千正	。二千二百 負	三萬四千二百正	。二百。六 負	六百二十 負	負

以式了見商幾ありや問者若干

答曰	甲商十箇	乙商十三箇	三分
	丙商十箇	丁商十箇	十分
	二百	一	五
	十	十	分

壺中隱者曰。是中井某之所設也。其人未嘗知受業于何門。若其問也。可謂高妙矣。余嘗在浪華獲





之乎管廟。因思諸思諸。又重思諸。既而獲諸。若有神而通其術。所謂盡式而新奇者也。終答對焉。其術頗秘。不示人有年矣。故今於此書亦不載。獨載商數。且夫題辭。書以國字。今遵而不改焉。覽者其察諸。

第二問

甲六十段 負	三百二十五 正	十七	正	十三	負	一算	正	右式
乙三十九段 負	七百八十三 負	二百十九	正	二十五	負	一算	正	左式
甲五十二段 正								
乙四十四段 正								

今有如右兩式。右三商和^八。左三商和^六。問甲乙。

答曰甲十一 乙十

第三問



今有鈞股內容方圓及中鈞。只云圓徑中鈞。在^四。又云圓徑方^五。其數欲得鈞股。及長短。經^五商之式。其術如何。

答曰。修左術。得^五商。四^式。

壺中隱者曰。余既答于中井。蓋以盡式新術。居在幾何。又得二問。則藤澤武義之所設也。此諸第一。愈妙愈奇。其附言曰。斯問也。何足為端。發。自答。期人窮。其答。時元文某年。冬十一月念五日也。

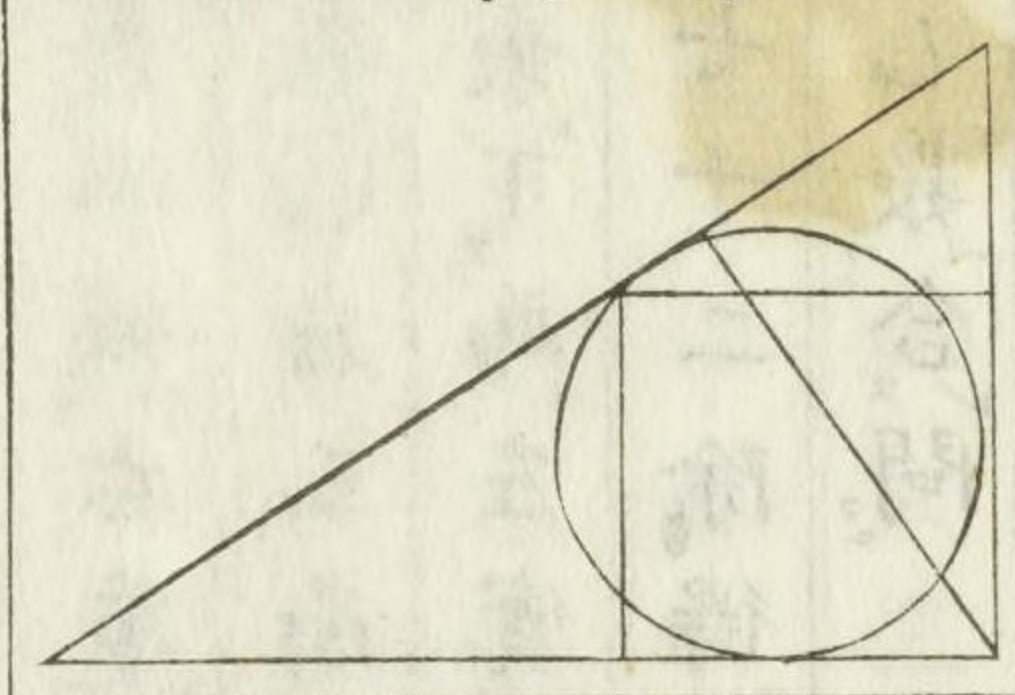




之乎言... 又重... 神而... 術頗... 尚數... 案諸

第二問

第三問



今有鉤股內容方圓及中鉤只云圓徑
 中鉤差寸^四又云圓徑方面差寸^三依此數
 欲設得鉤股弦及長弦短弦五高之式
 其術如何

答曰依左術得五高四乘式

壺中隱者曰余既答于中井某以盡式新術居
 幾何又得二問則藤澤武義之所設也比諸第一
 愈妙愈奇其附言曰斯問也何足為難發春自答
 期人窮年見答時元文某年冬十二月念五日也



於是發憤忘食不堪望蜀之意竟應其需人皆稱神速其術如左

答於第二術曰右三商和內減右隅餘名為丙○左隅內減左三商和餘名為丁○以丙減右隅餘乘丙得內減右廉餘乘丙得數以減右方餘乘丙為右實數○左三商和乘丁以減左廉餘乘丁以減左方餘乘丁為左實數三十九之以減右實四十之餘三百七十二除得甲數六十之以減右實餘三十九除得乙數合問

答於第三術曰術內只云數ヲ為レ只又云數ヲ為レ又幕ヲ為レ中再乘幕以上除ク乘ヲ務テ從レ省ニ也只

又和名為甲○只又差名為乙○列甲再自乘以只四巾與又三巾乘之得數以乙六巾除之段四為正實數○甲再巾段二曰只因又甲巾以乙除之段四因又三巾甲以乙巾除之段八三位相併以只三巾與又巾乘之得數以乙四巾除之為負方數○因只再巾因又三巾甲以乙除之段八只三巾又四巾相乘得數以乙巾除之段八因只再巾因又甲再巾段二三位相併得數以乙三巾除之為正廉數○因又巾甲以乙除之段二只甲相併以又再巾乘之以乙巾除之段四甲巾段一三位相併以只巾乘之得數以乙巾除之為負隅數○

只^二又^二相併以只與又乘之以乙中除之為正三
乘數○以一算為負四乘數合問。

第四問

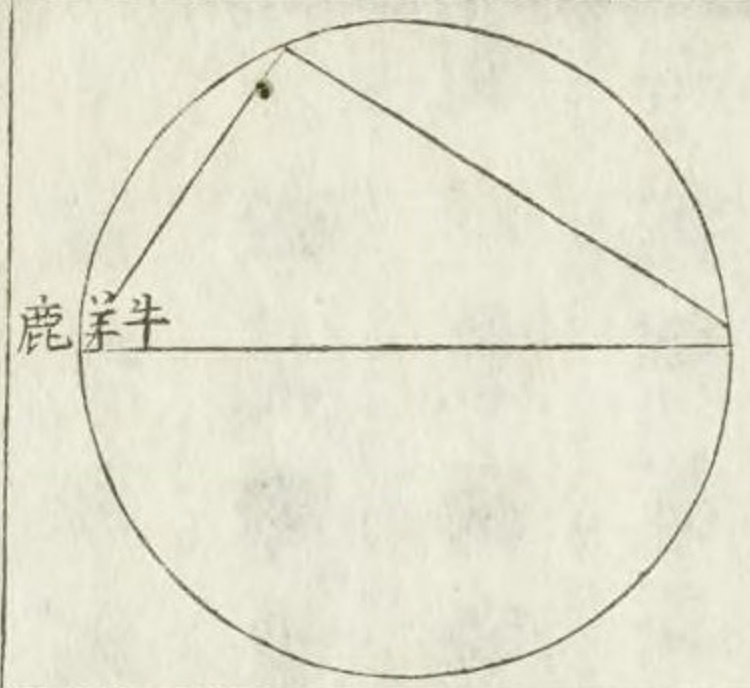
今有人買粟黍稗二品不知其斛數只云稗該銀開
四乘法為粟該銀再自乘之為黍該銀又云各每斛
價粟十三文黍八文稗五文別云各斛下有奇粟四
斛^{十三分}八分黍三斛七升五合稗八斛問得各該銀術
三該銀不滿一十萬

粟該銀十九文

答曰黍該銀六千八百五十九文

稗該銀二百四十七萬六千〇九十九文
壺中隱者曰此問鎌田俊清之門人細川某之所
設也蓋其本出乎嶋田氏鎌田氏亦私淑而與有
聞焉可謂源泉涸涸不舍晝夜矣宜哉其魁于諸
問也舊曰以蓆圍盛之而不言每圍盛幾斛幾升
非狂而何意脫落耳今且不用圍之一用量法問
術竟歸于一途不敢妄變改覽者莫恠焉
術曰粟有奇通分內子得數乘四十黍有奇乘五百
二十稗有奇乘二千〇八十三位相併得數以六十
五除之實不滿法者為粟該銀由此得各合問

第五問



今有大圓池，徑二百十二里半。南有如圖，三斜之洲。只云大斜二百十里，中斜百七十里，小斜百里。又云鹿與牛羊聚居，于大小斜之尖，同時出去。牛行盡池

周而還，是為一遍。其日行十三里之七分。羊如牛，一遍。又行大斜而還，是為一遍。其日行五里之四分。鹿亦如牛，一遍。又行盡三斜而還，是為一遍。其日行七里之五分。如是循行，不知幾遍。問經幾日而再會何處。
上圓法。徑百十三里。周三百五十五。

百四十億。六千七百七十四萬四千五百
 答曰四十三日。而再會于距聚居之地三百八十五里。百十三分里之七十五。

壺中隱者曰。是內田秀富之門人。衢村重矩之所設也。余竊疑是亦出乎島田氏。不然何為設問如斯。其至者矣乎。是所謂翦管而窮理者也。其術如左。

術曰。依術得牛四十五兆四千三百七十四萬七千五百五十九億七千九百三十四萬五千七百〇羊二十五兆〇八百七十七萬八千三百七十七億二千四

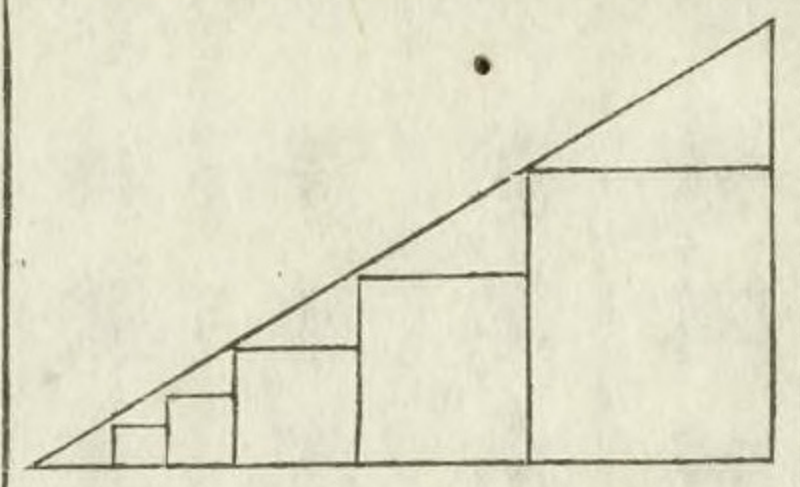
百六十九萬三千七百五十一。鹿十五兆四千六百八十九萬八千二百六十六。億二千三百〇。亦萬二千五百。右三數相併。以三千四百八十一乘之。得數滿五千三百八十六萬。八百二十二億二千六百三十九萬。二百五十去之。餘以百十三除之。得再會日數。由是得所問之里數。合問。

壺中隱者曰。夫數之行于吾邦也。莫盛乎浪華。於是。有鎌田氏。內田氏。中村氏。川北氏者。相繼崛起。乎享元之際。各自以術鳴于各處。人人自謂抱連城之壁。家家自謂握懸黎之寶。是以異問種種。

懸之。神廟龍宮而觀焉。許以千金。玉祠管廟稻荷座。摩清水藤井明王光寺等。無所不然。於是遠近人士。雲集霧散。或誦或筆。非子張則安世也。余亦幸生于其時。得與諸子相共唱和。凡五十四條。集錄藏于家。加討論潤色。獲雋永十五條。皆頗秘而不示人者也。今年余歲適于耳順。忽忽竟日。冉冉窮年。桑榆之期。在于須臾。因就十五條內。鈔出五條。以公諸嗜灸。天幸加年。則其餘十條亦所不隱也。

設問五條

第一



今有鈎股內如圖容五方欲使各寸無不盡只云鈎股弦及五方面共和二十一尺四寸四分六釐九毛九絲六忽問鈎股弦及五方面各若干

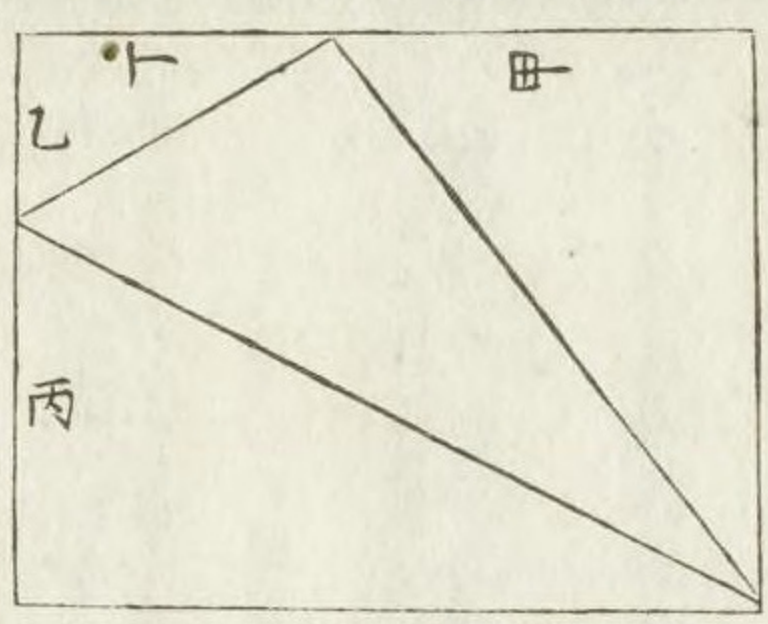
第二

今有四方之民同來于中州各買五色之絹只云東之所買每人青絹五十匹黃絹五十匹赤絹十三匹西之所買每人白絹八十九匹南則赤絹五十四匹黃

絹四十匹青絹二十三匹北則黑絹八十九匹又云

總計一萬匹問人數各西多於東北多於南東西差五之與南北差等若干

第三



今有直田如圖割與三斜之地欲使各步無奇零只云長平甲乙丙丁相和百二十步又云三斜共和百八步問得長平及三斜術

以下二問載在下之卷

算法少女中之卷畢



四十四音韻二十三... 壺中隱者撰術 季女平氏輯

算法少女卷之下

○攝州 壺中隱者撰術 季女平氏輯

第四

客あり互先... 壺中隱者... 壺中隱者撰術... 季女平氏輯

第五

壺中隱者撰術 季女平氏輯





卷之十
 平字二十八乃字二十八の。七言律絶の体。其音好と極楽さん。と。人あり。只云仄韻。不拗體。と不用。惡之連。い。も。謹。と。保。と。重。と。又。云。同字と不用。翻。點。の。如。も。每。篇。あ。ま。り。と。重。と。其。代。の。讀。痛。く。成。犯。と。亦。可。なり。二體の篇數幾何と問

前と後と又問。四字小示。と。其。音。と。保。と。の。か。ら。い。

○し。是。の。出。と。自。問。十。條。自。言。如。左。

第一

音曰米粒十條。七子二音七十四字八百二十二。

依り。と。音。十。條。之。律。六百外子八百廿七の律。と。七。音。二。子。外。百。廿。二。

口訣曰。一と重なり。い。自。系。と。子。廿。四。と。得。と。再。い。自。系。と。得。内。定。一。と。減。と。米。粒。の。極。好。と。律。法。六。百。四。十。八。百。廿。七。と。是。と。餘。と。石。數。と。得。と。字。法。と。滿。と。の。と。分。母。子。と。令。と。依。法。字。と。得。と。依。好。と。得。と。合。同。

音中讀者曰。定一と減と。妙之又妙。

第二

音曰二百甲日少。再會。





合間

第五

答云其術如左

以鉄曰二。やうく多んとおり八。二九十八と素一。三と
おり八。二九廿七と素一。四と九三六。又九四廿八。
下皆あひ〜合間

第六

答云小圓徑字 方面三寸 寸五分

術曰大矢小矢お同。〜と〜と〜と〜と十六と得。
半法は開く字と得。小圓徑と。是は倍と方面の合間。

只鉄曰鉤股弦の鉤合と倍と倍と得。○大矢徑と弦あり

○小矢倍〜股弦と倍。○大矢倍〜鉤弦と倍

○鉤弦若し同股弦若し倍〜小矢徑幕〜と。○大矢

幕口小圓徑幕一お倍口実〜と。頁○小矢口法〜と。正

○一算と廉〜と。頁半法と開く六寸と得と得と。大矢

二倍と加入〜と。弦と倍。大矢徑と倍。内小矢二と減〜と

股と倍。鉤と素〜と。鉤股積二と倍と実〜と。○鉤股

和一尺半と法〜と。是と法〜と方面三寸と得。実法

と満〜と若々。分母子と合〜と合間

第七





人言云總數千六百八十

湖曰。奇のあり八十九の内偶の総は四十と減し。四十

と得る。一と加へて四十と素一千六百四十と成る。偶の総は

四十と加へて一と合向

湖曰。是則壘堊之術也。倍同。可謂格算

なり。

第八

今假し數と後々湖と後々事如左

一銀二十貫百十之忽八徽

一銀拾七貫百十之忽七徽

一銀百貫九百二十之忽六徽

一銀八百七十之忽五徽

一銀六百八十之忽四徽

右外件お侮者算とる前如左

一甲の指字中九百二十

一乙日あ

一丙の指字中八百七十二之忽三徽

一丁の指字中八百七十二之忽二徽

一戊の指字中九百九十九之忽一徽

湖曰。此の指字中。拘ると皆一位とて是を算は





算術卷之二十六 十月より多し半なり生所の

男女と問

答曰男女と生

術曰年二十六の内至月十と減一銀十倍一二十定二
と加左より奇○百と置内左より奇と減一銀六十
一頁一善と法は正又一善と廉は正平方は問
高七と得る。実の銀は十。折半して七。奇数を男
と。若偶数を得るは女と問に合。

○求圓周秘術起源

口訣曰一一三九五二七四九一八八為乘率○

二三六相乘四二五十六相七乘八四九二相乘七二為除

率餘倣之○置三為原數乘率同前○列原數一

乘二十四除為一差○列一差九乘八十除為二差

○列二差二十五乘百六十八除為三差未次第如

此而至百差而止○置原數以各差逐一加入得圓

周

右不依角術不用開法捷徑而迂簡易而不煩
過括遠矣譬諸明珠之走盤可愛可重可玩可





貴。願。類。累。累。盤。渦。鼓。怒。忽。合。忽。散。互。相。觸。搏。覽。者。得。其。天。倪。幸。甚。幸。甚。

壺中隱者謹識

安永四乙未年十一月

東都



尚綱憲藏板



本石町十軒店

山崎金兵衛

同書林

算法少女卷之下畢

醫師年氏乃女かろふ学こる
教こを事よとめらる此教へる
糸かして三冊子比中一巻のから法
義の心亮一巻を母に教へる世に
ほく梓小らりる事ある人々
後席のめしとあると世にいふ
これらるもの流るは流の之終り
の之流して五七の外の好乃及紙
きりてめいりる事あると

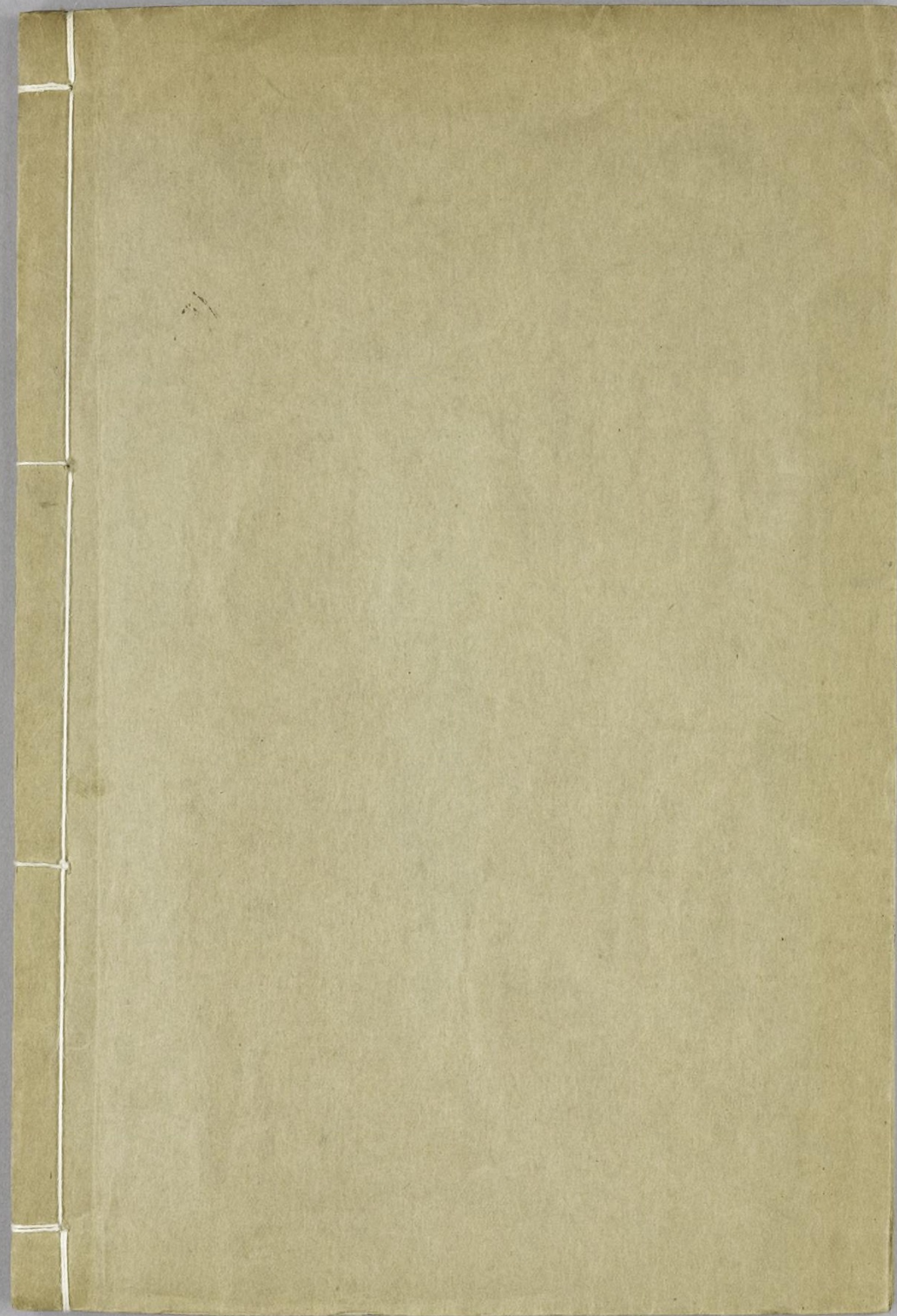




わ419
1

昔人乃一に記候をいづらふ
 之の由あるはと譲て者の候乃
 辭を申我の筆に記せらる
 人と女の者の志をいふは
 めと一陽申候外川に記す
 安永乙未癸十二日





算法少女 わ419-1 00-033

国立国会図書館

